

氷川神社
社報 第三十号

武蔵一宮

祭事曆

当社では毎日の日供祭以外にも年間約七十の祭典を行い、謹んで御皇室の弥栄と国家安泰、五穀豊穰と氏子崇敬者の繁栄を祈願しております。

四月 一日 月次祭

三日 神武天皇祭通拝式

五日〜七日 鎮花祭

九日 埼玉縣護國神社例祭

十五日 献詠祭(兼題 山吹)

二十九日 昭和祭

五月 一日 月次祭

五日 祝子祭

九日 御鎮座祭

十五日 献詠祭(兼題 筍飯)

二十一日 道饗祭

六月 一日 月次祭

五日 粽神事

十五日 献詠祭(兼題 南風)

天皇皇后兩陛下

英吉利国御渡航

行幸啓安泰祈願祭

三十日 大祓式

茅の輪設置期間

六月二十二日〜七月七日

奉祝行事としての記念営繕事業

五月九日、令和十年の御創建二千五百年祭の奉賛崇敬会準備委員会の商工会議所会頭池田一義様はじめ会員の皆様御参列のもと、御鎮座祭を斎行致しました。祭典後には一の家にて会議が行われました。

これまで当社が行ってきた周年事業としては、明治天皇御親祭百五十年祭(平成二十九年)、明治天皇御親祭百年祭(昭和四十二年)、皇紀二千六百年奉祝(昭和十五年)、明治天皇御親祭五十年祝祭(大正六年)などがあります。

記念事業として営繕事業が行われますが、中でも、皇紀二千六百年奉祝では本殿・拝殿・舞殿・楼門・手水舎など現在の社頭のほとんどのものが造営され、百年祭では当時、檜皮葺きであった屋根が銅板葺きへと替えられています。

皇紀二千六百年奉祝の営繕事業は昭和の大造営といわれる大事業でしたが、昭和十五年ころは戦況の悪化や資材不足などにより、計画当初、拝殿まで繋がる予定であった回廊は途中で工事終了となりました。百五十年祭では祈禱殿や東西回廊を建設し、現在では拝殿まで回廊が繋がっております。

これからの百年、二百年と続く氷川神社の護持運営のため、氏子崇敬者の皆様には御理解と御協力をお願い申し上げます。



昭和の大造営後の檜皮葺きの舞殿(上)、同じく楼門(下) 古絵葉書集『氷川の社を訪ねて』より



昭和43年頃の銅板葺き後の社殿『旧略記』より

社頭往来

花しづめ祭奉納弓道大会

四月五日、第七十七回花しづめ祭奉納弓道大会が行われました。令和元年の実施以降、中断していましたが本年再開し、一般、学生あわせ約五百名が参加致しました。



大成神楽奉納

四月七日、神楽殿にて大成三丁目囃子連中による里神楽の奉納が行われました。



大宮剣道連盟奉納演武

四月七日、大宮剣道連盟中村好一会長他演武者が正式参拝を行いました。その後、打太刀錬士七段細田哲氏、仕太刀錬士七段岡武志氏による日本剣道形が奉納されました。昭和十一年高野佐三郎先生御臨席の元、境内で実施してきた剣道大会は今日、大宮武道館での開催と変遷しております。



正統正流無雙直傳英信流
居合道国際連盟



四月十三日、正統正流無雙直傳英信流居合道国際連盟小原憲一会長他会員が正式参拝を行い、舞殿にて演武を奉納されました。

おおみや盆栽春まつり

五月三日、五日、大宮盆栽ウィークと題し、盆栽村の盆栽四季のみちなどで行われた大盆栽まつりにあわせ、さいたま市主催のおおみや盆栽春まつりが開催、当社では舞殿に七園の盆栽園の盆栽が展示されました。



埼玉県茶道協会 春の茶会

五月四日、勅使館及び呉竹荘にて埼玉県茶道協会の春の茶会が開催され、県内外から約四百名の参加者がございました。

茶席 表千家 右田宗澄

表千家 新田宗恵

大日本茶道学会

白根仙美



本殿模擬奉式 総合展示会

五月六日、本殿にて十三時に模擬奉式を行いました。また、社務所では婚礼衣装などのアイテム展示会や新規相談会など総合フェアを開催致しました。



世話人研修旅行

五月七日、八日の二日間わたり世話人研修旅行を実施致しました。本年は栃木県鹿沼市に鎮座する古峯神社を正式参拝、田母沢御用邸記念公園などを見学致しました。

小笠原教場曇目の儀並百々手式

五月十一日、弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家小笠原清忠様主催の、曇目の儀並びに百々手式てしきが小笠原教場会員約三十名により奉納されました。



氷川ほたるの会清掃奉仕

五月十一日、氷川ほたるの会会員により蛇の池から神池に続く水路の清掃奉仕が行われました。



裏千家献茶式

五月十九日、茶道裏千家今日庵献茶式が執り行われました。当社境内の御神水で湯を沸かし、御家元御名代碧流斎伊住宗陽宗匠の御奉仕にて神前に濃茶、薄茶が奉納されました。



大宮新能

五月二十四日、二十五日、舞殿にて公益社団法人さいたま観光国際協会主催の第四十三回大宮新能が開催されました。

奉納演目

五月二十四日(金)

素謡(金春流)翁 金春憲和

狂言(和泉流)鐘の音 野村万作

能(宝生流)半部 小林与志郎

五月二十五日(土)

素謡(金春流)翁 本田光洋

狂言(和泉流)貫智 石田幸雄

能(金春流)高砂 金春安明



鐘の音
写真提供：さいたま観光国際協会

特別紙朱印「ほたる」

五月二十五日より数量限定の特別紙朱印「ほたる」の授与を開始、六月九日に終了致しました。



大日本茶道学会茶会



五月二十六日、勅使館及び呉竹荘にて、大日本茶道学会埼玉県支部連合会主催の茶会が開催され、県内外から約四百名の参加者がありました。

濃茶 秩父支部
薄茶 川越支部
立礼 大宮支部

敬神婦人会 春の研修旅行

五月二十九日、敬神婦人会の春の研修旅行を実施、中村明子会長他六十六名が参加し神奈川県川崎市鎮座の稲毛神社を正式参拝致しました。



螢放生齋行 螢鑑賞会開催

六月八日、舞殿にて螢放生祭
を行い、氷川ほたるの会会員に
より神池にゲンジボタル約千八百
頭が放されました。鑑賞会は八
日、九日に行われ、あわせて参
道では氷川マルシェが開催され
ました。



こいたま市職場体験



桜木中学校



大宮北中学校



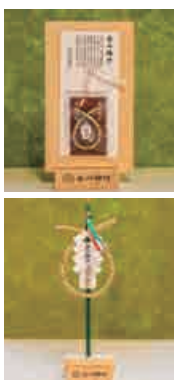
大成中学校

さいたま市中学生職場体験事
業「未来くるワーク体験」で六

月十八日～二十日まで桜木中学
校、二十五日～二十七日まで大
宮北中学校、二十六日～二十八
日まで大成中学校の生徒を受け
入れました。境内清掃や御札の
授与の他、最終日には舞殿にて
豊栄の舞を奉奏頂きました。

特別紙朱印「茅の輪くぐり」
茅の輪守授与開始

六月二十二日、茅の輪設置に
あわせ茅の輪守と特別紙朱印「茅
の輪くぐり(六月三十日終了)」
の授与を開始致しました。



鹿島神傳直心影流一劔会奉納演武

六月二十二日、鹿島神傳直心

影流一劔会松本亮太代表他会員
が正式参拝を行い、舞殿にて演
武を奉納されました。



書元会書道廻廊展示

六月二十八日から七月一日ま
で例年、大祓式に合わせ展示さ
れる書元会による書道の廻廊展
示が行われました。今回は小学
一年生から中学三年生までの会
員の作品で「もり」、「とけい」、
「なかよし」、「赤いはし」、「神話」、
「神社の池」、「並木参道」、「書芸
墨美」が兼題となりました。



四月の奉納献華



古流松藤会
池坊
桂古流

岩波理豊
草谷智花
高橋典花

草月流
正風流
春草流

竹下尚峰
桐生一光
栗原春彩

五月の奉納献華



古流松藤会
池坊
桂古流

岩波理豊
草谷智花
高橋典花

草月流
正風流
春草流

竹下尚峰
桐生一光
栗原春彩

六月の奉納献華



古流松藤会
池坊
桂古流

岩波理豊
小林華侑

桂古流
草月流
正風流

高橋典花
竹下尚峰
桐生一光

敬神婦人会湯茶接遇

令和元年十月十五日の実施から中断しておりました敬神婦人会会員による参拝者への湯茶接遇が、令和六年四月一日から再開されました。敬神婦人は昭和三十七年に結成、当社の諸祭事や護持運営に御協力を頂いており、現在は約四百名の会員数となっております。

実施日 ・ 四月一日、十五日

・ 五月九日、十五日

・ 六月一日、十五日

参道清掃奉仕御礼

参道の清掃活動を頂きました皆様の芳名を紹介し、謹んで御篤志に感謝申し上げます。

(五十音順、敬称略)

- ・ 阿含宗埼玉道場
- ・ 大宮明るい社会づくりの会
- ・ 崇教真光大宮準道場
- ・ 高鼻町二丁目自治会
- ・ 高鼻町二丁目友の会
- ・ 大和証券株式会社大宮支店
- ・ みずほ証券(株)
- ・ 武蔵コーポレーション(株)
- ・ 明治安田生命保険相互会社
- 大宮支社大宮西営業所

正式参拝及び諸会議

(敬称略)

四月

七日

公益社団法人 日本青年会議所
大宮剣道連盟

十日

北足立郡市総代会役員会
正統正流無雙直傳英信流
居合道国際連盟

十三日

大宮鷹職組合
武蔵菊花会菊作り研修会
京所青年会(大國魂神社)

十四日

所沢ロータリークラブ
敬神婦人会監査会

十六日

大宮新能会議
敬神婦人会

二十日

出雲大社教東部教区庁
敬神婦人会

二十三日

真澄の会
氏子青年会監査会

二十九日

小笠原流教場
武蔵菊花会菊作り研修会
池袋氷川神社(東京)

三十日

全国PHP友の会
氷川雅楽会総会
台湾桃園神社

五月

一日

鎮花祭奉仕者
出雲大社宮崇敬会東京支部
監査会

十二日

氏子青年会総会
大宮新能関係者
責任役員会

十五日

敬神講社理事会
氏子総代会並評議員会

二十七日

鹿島神宮宮司 東俊二郎
三ヶ島神社氏子総代会
氷川マルシェ

六月

五日

大井神社氏子会
伊勢朋友会

七日

武蔵菊花会菊作り研修会
川越初雁会

九日

鹿島神傳直心影流一剣会
氏子総代会並評議員会

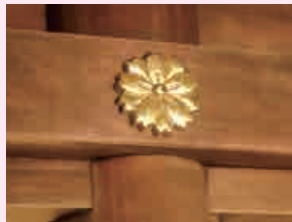
十二日

院友神職会埼玉支部

二十日

院友神職会埼玉支部

埼玉縣護國神社御創建九十年



本年は桜の開花が近年より遅く、大宮公園は四月初め、桜花爛漫でしたが、四月九日は雨と風が強く花散らしの一日となりました。例祭は雨儀となりましたが、献幣使に鶴ヶ島市に鎮座する白髭神社の宮本孝雄宮司の参向を頂き厳肅に行われました。

護国神社と桜

敷島の 大和心を 人間はば

朝日に匂ふ 山桜花

江戸時代の国学者である本居宣長が日本人の心を、山桜を用いて表現したように、桜は古くから日本人にとって特別な花でした。桜は武士の心にも例えられ、美しく散りゆく事にこそ本来の姿があるとされ、近代になり護国の英霊もまた桜に例えられました。明治になり各地に建てられた護国神社の多くが桜花を神紋とするのは、このためです。

埼玉縣護国神社の神紋も山桜が用いられ、社殿上部の鯉木や殿内装飾にも桜があしらわれています。

埼玉県における英霊祭祀は、まず明治十年二月に起こった「西南の役」に際し、本県出身者七十余名の慰霊祭が同年十一月四日に斎行された事に始まります。この慰霊祭は浦和の調神社境内で氷川神社宮司の平山省齋が祭主として奉仕致しました。

日清、日露戦争でも多数の戦没者が出ましたが、大正三年に第一次世界大戦が勃発すると、同七年にシベリア出兵があった事もあり、同八年には本県出身戦没者は一五七名に達しました。これにより同九年、埼玉県知事堀内秀太郎を会長とする尚武会は祭場を氷川神社北側の氷川公園(昭和二十三年に大宮公園に改称)内に設け慰霊祭を主催し、氷川神社宮司が奉仕致しました。

その後も増加する一途の戦没者に県を挙げての英霊祭祀を斎行する為の機運が高まり、「埼玉縣招魂社」造営の議が起りました。造営に関しては建築技師二本松孝蔵の設計に基づき銅板葺きの神明造りで造営されました。昭和九年四月八日竣工、翌九日に氷川神社宮司が祭主を務め、鎮座招魂祭が斎行されました。この日は、近衛師団長朝香宮鳩彦王殿下をはじめ、陸海軍各大臣、横須賀鎮守府司令官、在郷軍人、青年訓練生、学校生徒など一万余名名の参拝があったという事です。

現在は鎮座招魂祭が行われた四月九日を例祭と定め、県下の御遺族が多数参列し斎行、祭典中には「天地の 神にぞいのる 朝なぎの 海のごとくに 波たたぬ世を」という昭和天皇の御製を歌詞とする浦安の舞が奉奏されています。

絵葉書にみる造営時の護國神社

氷川公園内の中央広場付近から社殿に向かう参道正面に、英霊の鎮まる社が望める静謐な環境に護國神社は造営されました。戦後の公園内の道路付け替え工事に伴い社前を横切る道路が開削され、公園と神社が異なる空間にある風景となりました。



明治の御代に鉄道が建設、同18年に大宮駅が開業すると、大宮は日帰りまたは一泊程度で訪れる観光地となりました。現在のように気軽に個人で写真が撮れない時代に絵葉書は通信手段だけでなくお土産としても喜ばれました。上掲の絵葉書は氷川神社や氷川公園等の絵葉書とあわせて古絵葉書集『氷川の杜を訪ねて』に収められています。

社叢管理室

此度、参道の三の鳥居付近に社叢管理室を設けました。社叢とは神社の森や神社境内に生い茂っている木々の事で、神社の森は鎮守の杜ともいわれます。今後とも末永く鎮守の杜を守り続けるために木々を丁寧管理して参ります。

水川参道は、現在ケヤキが七割近くを占めておりますが、境内には松や杉、椎など様々な木々が生い茂っております。かつて境内に植生した人々の目を引く特徴的な木として、本殿近くに杉、三の鳥居内には大宮薪能の象徴でもあった椎、社務所付近には春の鎮花祭を彩る桜などがありました。

現在は、睦まじく繋がっているかのような楠が夫婦楠としてあり、車のお祓い所付近などにあるオガタマノキは招霊(小賀玉)の木ともいい神霊が宿る木として御神木となる事も多い木となっています。

神社によって境内の木々はすべて御神木と考える神社もあれば、特定の木に注連縄を張り、紙垂を取り付け御神木としている神社もございます。



新能舞台裏の椎



社務所付近の桜



全国の神社を包括する神社本庁では、平成二十四年に各神社の鎮守の杜の現状を確認するため、國學院大學研究開発推進機構との共同事業として全国の本務神社の宮司にアンケート調査を行い、約二千百社の回答から冊子『神社と御神木・社叢』を刊行致しました。

境内林の植生の中でも巨木となる可能性が高い木が、御神木の樹種の上位に入っている事がわかります。神社境内にある木々で、特に巨

木は人々の信仰の対象となり手を触れる方もおりますが、多くの方が近づいて土が踏み固められる事は木が弱まる原因になります。他にも外来の害虫や自然災害、異常気象等の要因で、境内の木が枯れてしまう事が増えてきました。

木々を守るためには、神社の努力だけではなく、大勢の方の理解と公共の協力も欠かせません。

社叢管理室は、参道沿いにお住まいであった故高橋重種氏の御遺志により昨年12月に土地建物が神社に御奉納となり、改修して設えられました。高橋家は古くから当社の社人として御奉仕された家で、先代の高橋喜種氏は責任役員もお務めでいらっしゃいました。現在、参道に立つ平成の丁石は高橋喜種氏の揮毫によるものです。



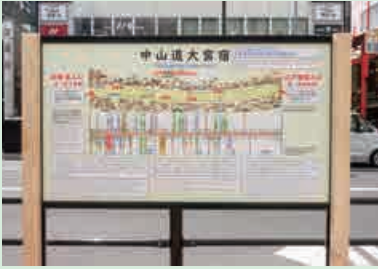
氷川参道と中山道大宮宿

中山道は五街道の一つで江戸時代初期に整備が進められました。それまでの元往還(古中山道)は神社付近を通っていましたが、寛永五年(一六二八)に現在のように付け替えが行われました。

江戸幕府の役人であった村尾嘉陵の著した紀行文『中山道大宮紀行』は当時の神社の様子を知る資料として貴重なものです。

「二丁ごとに石を建てて標識としている。大門の並木は十八丁続いており、この石標には宝暦四年申月日篠崎源太夫建と刻まれてある。前方を見ると、石標が果てしなく続いているようである。」という何気ない紀行文ですが丁石によって距離が記され、信仰の跡として残されている様子がわかります。一丁は約一〇九mであり十八丁で約二kmとなります。尚、宝暦十四年(一七六四)に大宮宿仲町の小嶋権左衛門と平八によって奇進された拾丁石が、さいたま市立博物館に保存展示されています。

現在、大宮は飛躍的に発展し、大宮宿の往時の姿をとどめる建物はほぼ無くなり商業ビルやマンションなどになっています。令和六年三月、中山道大宮宿があった事を後世に伝えるべく、大宮門街付近の旧中山道沿いにさいたま市文化財保護課・大宮郷土史研究会・大宮観光ボランティアガイド会により案内板が設置されています。



大宮宿は中山道付け替えにより計画的につくられた宿で短冊型に敷地が並んでおりました。案内板には絵図面の他、当時の屋敷割が書かれています。

分社紹介

全国に約二八〇社ある氷川神社の分社、その中から獅子舞の奉納がある分社を御紹介致します。



写真提供：桶川市歴史民俗資料館

(川田谷)氷川神社

鎮座地 桶川市川田谷二〇八二
獅子舞 桶川市指定無形民俗文化財。十月中旬の秋祭に奉納。「三田原のささら獅子舞」。



写真提供：八潮市立資料館

(大瀬)氷川神社

鎮座地 八潮市大瀬一五〇一
獅子舞 埼玉県指定無形民俗文化財。七月第一土・日に境内の浅間神社、氷川神社に奉納。別名「どろんこ獅子」。



写真提供：八潮市立資料館

(二丁目)氷川神社

鎮座地 八潮市二丁目一九六一
獅子舞 八潮市指定無形民俗文化財。七月中旬の日曜の祭典に奉納。別名「田の草取り獅子」。

※獅子舞の奉納日は桶川市、八潮市の無形民俗文化財紹介等で詳細を御確認下さい。

観月雅楽演奏会の御案内

日程 十月十五日(火) 十八時

会場 楼門内舞殿

入場無料、雨天時は祈禱殿開催

曲目

神楽

舞楽

浦安の舞

納曽利

豊采の舞

萬歳楽

迦陵頻

萬歳楽



迦陵頻



納曽利



浦安の舞



萬歳楽



豊采の舞

第三十一号は十月十五日発行予定です



特別紙朱印 満月と迦陵頻 9月21日



特別紙朱印 氷川の縁起電 8月10日



特別紙朱印 例祭進行 7月27日

特別紙朱印の他、最新のお知らせはホームページ、SNSでお知らせ致します。

Home Page button with QR code

Instagram button with QR code

X (Twitter) button with QR code

発行 令和6年7月15日 発行所 氷川神社社務所
写真協力 (桶川市川田谷)氷川神社 (八潮市大瀬)氷川神社 (八潮市二丁目)氷川神社
宮野信昭 中村写真館 工藤裕之 印刷所 株式会社秀飯舎
さいたま市大宮区高鼻町1-407 電話 048-641-0137 https://musashiichinomiya-hikawa.or.jp